

## メルケル首相党首選不出馬による今後の展開

2021年が首相の任期となるメルケル首相は、今回が最後の任期と市場では見られていました。ただ、2つの州議会選挙で示された急速な求心力低下により、「禅譲」時期が早まった印象です。12月に予定されるCDU党首選では、親メルケルと反メルケル路線の候補者が混在するだけに、今後のドイツの動向を占う上で注目の選挙となりそうです。

### ドイツのメルケル首相：首相職は継続するも、12月の党首選に出馬しない意向を表明

ドイツのメルケル首相は2018年10月29日に記者会見で、保守系与党のキリスト教民主同盟(CDU)の党首を退任する考えを表明しました。ただ、メルケル首相は2021年までの首相職を任期を全うする構えですが、今年12月の党大会では、党首選挙に出馬しないことを明らかにしました。

ドイツでは14日にバイエルン州、28日にヘッセン州で州議会選挙が実施され、CDUは議席を大きく減らしました。

### どこに注目すべきか：州議会選挙、財政規律、CDU党首選挙

2021年が首相の任期となるメルケル首相は、今回が最後の任期と市場では見られていました。ただ、2つの州議会選挙で示された急速な求心力低下により、「禅譲」時期が早まった印象です。12月に予定されるCDU党首選では、親メルケルと反メルケル路線の候補者が混在するだけに、今後のドイツの動向を占う上で注目の選挙となりそうです。

まず、メルケル首相がドイツ与党の一角であるCDU党首を退任する意向を示した背景を振り返ります。直接的には、バイエルン州、ヘッセン州の議会選挙でCDUが議席を大幅に減らしたことです。また、来年5月には欧州議会選挙、秋に旧東独3州で州議会選挙を控え、メルケル首相が選挙の顔となると、今回の州議会選挙で議席を伸ばした極右勢力台頭の恐れもあります。足元の州議会選挙の責任を取る一方、今後の選挙への仕切り直しが背景と見られます。

次に、市場の反応を見ると、当初メルケル首相辞任との解釈も見られユーロ安、ドイツ国債利回りの上昇(価格は下落)が見られました(図表1参照)。また、ドイツはユーロ圏の財政安定運営を率先、例えば、リーマンショック後先進国各国は財政政策拡大により債務残高対GDP比率は全般に上昇していますが、ドイツは足元はリーマンショック前の水準に戻っています(図表2参照)。メルケル首相退任の意向で財政規律が緩むとの思惑が市場の反応の背景となった可能性も考えられます。

しかし、ドイツの財政規律が緩む見込みは小さいと思われます。報道されているCDU党首選の候補者(予定も含む)は財政緊縮維持を軒並み支持すると見られるからです。

一方で、他の政策には対立が見られます。特に移民政策等ではメルケル首相のリベラル路線と、反メルケル路線を主張する候補が混在している模様です。例えば、クランプカレンバウアーCDU幹事長は後継者として望ましいと考えられています。同氏は基本リベラルながら移民政策に関しては若干の厳格さは必要との立場です。メルケル路線そのままでない点が、むしろ後継者として評価されています。

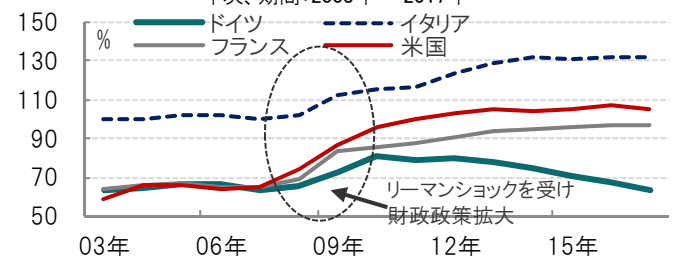
反対に、イェンス・シュパーン保健相は保守派で、厳格な移民政策を主張しています。また、メルケル首相の政敵とも言われるメルツ元院内総務も出馬予定です。

このようにCDU党首候補者に路線の対立が見られます。そのような中、与党党首と首相を別の人物が務めるというのは異例の事態です。しかし12月に予定されるCDU党首選で親メルケル路線の候補者が選出されるならば、次期党首から首相への禅譲が穏健に進む可能性があります。しかし反メルケル路線が選ばれると、首相の早期退陣などが懸念されます。次回のCDU党首選挙に注目が必要です。

図表1:ドイツ10年国債利回りとユーロ(対ドル)の推移



図表2:主な国の政府債務残高対GDP(国内総生産)比率  
年次、期間:2003年~2017年



出所:ブルームバーグ、IMFのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成